2026.1.31 温井 亨
東北公益文科大学

私はほんのすこしでも自分を方向づけようとしたことがあっただろうか？

1. リベラル・アーツ大学の教員としての最終講義

2. なぜ、スタンダールか
   a 表題はコース分けガイダンスの時などに学生に言ってきた言葉
   （親や、世間や、収入や、そうしたことよりも自分の内から湧いてくるものに従へ！）
   b 2つの景観（眺望と囲繞：講義「風景のデザインa」で説明するときに使用）
   c 自分とは何か：『アンリ・ブリュラールの生涯』は、ローマ、ジャニコロの丘の壮大な眺めを前に、50になろうとしている自分を振り返ることから始まる。自分は幸せだったか：ナポレオンの軍隊に加わりアルプスを越えてミラノにはいった17歳のときの極度の幸福、語ること、描くことが不可能な幸せで終わる。
   d もう１つの世界：かつてあった地中海世界としてのイタリア、古代、或いは中世イスラム
   e 非国民：墓碑銘にある「ミラノの人」 Errico Beyle Milanese Visse,scrisse,amò

3. 3人の友人、知人とも比較しながら
   a 坂 茂：建築家（建築のノーベル賞と言われるプリツカー賞受賞、suiden terrace作者）
   b 吉見俊哉：社会学者、東京大学名誉教授、元副学長。著書200冊弱？、岩波新書8冊
   c 如月小春（伊藤正子）：劇作家、演出家。劇団綺畸、NOISE。2000年に44歳で急逝。

4. 大学に入って。若い頃考えていたこと
   a 人間はいないか？
   b 世田谷区羽根木公園で「ブランキ殺し上海の春」黒テントを見る。
   ベンヤミン：ボードレールとブランキ
   c 劇団綺畸。伊藤正子、吉見俊哉と出会う。
   如月小春「家、世の果ての」スーパー不夜城の店員５
   伊藤一尋「リハーサル・リハーサル」パリス
   温井亨・櫨山裕子「うれしはずかし 啞然（アーデン）の森」シーリア
   d 環境省に行きかけるが、建築学科に学士入学。（就活で象設計集団に1か月）
   e 大学を卒業し東孝光建築研究所入所。坂茂と知り合う。
   f 都市政策を考える会（大谷幸夫代表）：畏友前田昭彦の誘いで出入りする。
   g 同時代建築研究会（宮内康主宰、布野修司・・・）：同上。
   h イタリア政府給費留学（ミラノ工科大学、BBPR。東大助手の誘いがあったが・・・）
   i まちづくりカンパニー・シープネットワーク（川越、長浜、高松、・・・）

5. 山形に移って（東北芸術工科大学 1994～2010、東北公益文科大学 2010～）

a 建築設計（芸工大大学院棟、石彫棟、山形市立第一小学校新校舎）

b 村山市上五十沢集落の（村づくり）

c 山形市立第一小学校の保存、再生

d 城下町やまがた探険隊、湊町さかた探検隊、ぶら探酒田

e 大石田、上山、余目

f 旧割烹小幡の蔵でカフェ、旧加藤邸でカフェ

g プロポーザル審査で係わった建築（クラッセ、町湯、庄内町役場、遊佐道の駅）

h 委員会、講演会等で（鶴岡、藤島、松ヶ岡、遊佐）

i 和食文化学会庄内大会（2019）

6. これまでを振り返り、どう考えるか

7. 今後

Umberto Saba, Ulisse より

中庭型住宅

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

当日配布した以下の４つの資料を閲覧できるようにしました。

１．本レジュメ

２．如月小春「夜の学校」

３．ベンヤミン「ボードレールにおける第二帝政期のパリ」

４．宮内康「象讃歌」

２は講義になかで触れていませんが、如月小春を知らない人に、彼女がどういう人であったか一端が分かる簡潔な文章として配りました。私がかかわっていた時期よりずっと後に書かれたものですが。

２は椙屋一之氏から、３は晶文社から、４は彰国社から掲載許可をいただいています。